

## 豊水トントんに600人が競演

～のぼりべつ豊水まつり～



市民600人が参加した豊水トントン

### 演劇の魅力と奥の深さを体感

～北海道舞台塾in西胆振  
“富良野塾演劇セミナー”～

8月7日(水)、8日(木)の2日間、ふおれすと鉾山で『北海道舞台塾in西胆振“富良野塾演劇セミナー”』が開催されました。

この事業は、室蘭、登別、伊達の3市が、地域の舞台活動を活性化させようとしている3カ年事業・北海道舞台塾in西胆振の一環として開かれたものです。最終年となった今年は、脚本家倉本聰さんが主宰する『富良野塾』の元塾生2人を講師に招き、3市の高校の演劇部員53人が参加して開かれました。

参加者は、記憶力や集中力、表現力など演劇に必要なとされる能力を高めるトレーニングを体験した後、グループに分かれ、演劇や踊りをいきいきと発表。最後に講師からアドバイスをもらい、演劇の奥の深さや魅力を改めて体感しました。



7月20日(土)と21日(日)の2日間、登別中央ショッピングセンター・アーニス横のらいば公園と富士橋からJR幌別駅前までのらいば通りで『2002のぼりべつ豊水まつり』(同実行委員会主催)が開催されました。

初日は、あいにくの雨模様でしたが、13時30分から幼稚園児による演技で豊水まつりが開幕し、缶積み競争やアイス早食いゲーム、パトントワラー、太鼓演奏などが続き、祭りを盛り上げました。

夜にはこの日の最大行事である『豊水トントン』踊りが花火の合図でスタート。浴衣や法被姿の男女600人が競演しました。

また、沿道にはおもちゃや飲食コーナーなど約50軒の露店が並び、大勢の市民で身動きが出来ないほどのにぎわいを見せました。

21日(日)は、HBCラジオの公開録音を兼ねた市民カラオケ大会をはじめ、裸みこし、子どもみこし、ちびっこ浴衣ショー、ビンゴ大会など盛りだくさんの催し物が行われました。



祭りを盛り上げた裸みこし

### イギリスで登別のPRを

～スティーブンが鬼大使に～

7月23日(火)、平成11年から3年間にわたって市内の中学校などで英語指導助手として活躍したスティーブン・アスキューさんが『登別市ふるさと大使(通称:鬼大使)』に委嘱されました。



この鬼大使は、首都圏や海外に在住する登別ゆかりの方42人に登別のPRをしていただいているもので、アスキューさんは外国人として12人目の鬼大使になりました。

生徒たちから「スティーブン」と呼ばれ親しまれていましたが、契約期間を終え、7月末に母国イギリスに帰国しました。「登別では多くの人に出会い、楽しく貴重な経験をさせてもらいました。これからは一生懸命大好きな登別を宣伝しますよ」と張り切っていました。